

無視 – 負の連鎖 –

ライブラリ

A男とB子

年齢が高いA男は「若い女の人から相手にされるわけがない」と思っており、事実に基づいた認識をしていたが、関係先の若いB子から愛想良くされていたため、意味が分からないでいた。「挨拶するにしても普通にしてほしい」と思っていたので、ある時からB子は無視するようになった。

だがA男は、「愛想の良い挨拶」を返していた自分に気付かないでいた。

B子

B子は仲間外れにされた過去を引きずっていたので、同僚女性から「A男は話しやすい人だよ。気さくな人だから話しかけてみるといい」と言われていた。だが相手にされず「なんで私は無視されるの？同僚と私の違いは年齢でしょ。中年はいいけど若年はダメなんて、意味が分からない…」と気落ちしていた。

一方で、若い人グループに参入しようとした年寄りには、若い人からうと疎ましくされる事実をB子は忘れていた。

A男

A男は生まれて1か月で毎日日中に6時間放置される赤ん坊時代を送っており、オギャーと泣いても独りにさせられていたため、孤独や無視される耐久力が上がって、無視される他人の衝撃が分からないところがあり、大人になると、場面によっては平気で人を独りにさせたり無視することがあった。

呼んで、すぐに来てくれるなら「呼べば来る」という自信に繋がるが、赤ん坊がいくら呼んでも来てくれないので人格形成に問題が生じ、自分に自信が持てないまま成長した。

人格は無視され、人形を扱うように育てられたため、何事にも自信が持てず、発

する言語を聞いてくれた経験もなかったので初語^{しよご}が遅かった。

自信がなかったため、幼少からイジメられることが多かった。

周囲にいる、怒ったと思ったら笑い、笑ったと思ったら怒り出す人の、感情の起伏の激しさが理解できず、幼少から恐怖と隣合わせだった。

とにかく怖いから相手の表情をよく観察するしかなく、感情が「怒り」と判断できて鎮静化の術がなくても、恐怖の中で過ごすには相手の感情を知る以外に方法がなかった。

生存のために感情を察知する試みを重ねていると、いつの間にか、人の心が読めるようになっていたが、頭の中で考えていることまで読み取れるわけではなかった。

心理に明るくても真理に明るいわけがなく、相手の背後関係までは見えないから、都合よく利用しようと近寄ってくる輩の対処法は身に付けられずにいた。

虐げられることが多く、人から良くされた経験もほとんどなかったので期待もなかった。何事も自分一人で解決する精神が出来上がっていた。

大人になる頃には、相手の心を読んでいるので会話がうまく行くようになっていたが、心理カウンセラーを生業としていなかったし、職業心理カウンセラーであっても常時心理カウンセリングをするはずもないから、A男がしているのは普通の会話だった。

A男との会話に期待して来る人は、A男が疲れている時は空振りに終わり、場合によっては腹を立てるが、A男は相手の感情の変化に当然気付いていて、理由を考えるが、疲れているので思考を打ち切るしかなく、また日常会話をしているつもりだったので、相手が不機嫌になった原因が、相手の期待に応えなかった自分にあると特定するまでに長期間を要した。

愛想良くしただけで犯罪に巻き込まれる危険性が分からないのは、B子が社会に出て間もないためではないか？と気付いたA男は、愛想の良さに意味はないと分かり、謝罪しにB子のところへ行ったが、B子はすでに退職していた。

B子とC男

「なんで…。なんで私は受け入れられなかったの。私は取るに足らない存在」と思いながら、B子は新しい職場で過ごしていた。相手にされるはずがないのに、B子は関係先のC男からよく話しかけられていたので、意味が分からず、ある時無視を決め込んだ。

B子はA男にされたことをC男にしていることに気付かなかった。

C男とD子

C男はB子から離れた。

C男は同じ職場のD子が困っていたので手伝った。昼も近かったため、D子は「食事にしましょう」と言ってロッカー室へ着替えに行った。文脈からすると「一緒に」だが、「個別に」とも受け取れたため、C男は一人で食事に行った。

ロッカー室を出たD子は困惑した。

私は置いてきぼりにされたのか、置いてきぼりなら理由は何か、独りにさせるなら助ける必要などなかったのではないか、私はからかわれているのか、見返りを求めて人助けするのはおかしいからこれも有りか、私は見返り付きの人助けを認めたのか、私は見返りを渡したかったのか、それともC男は既婚だったのか…と考えながら独りで食事をした。

C男

C男は小学生の時に、容姿や偶発的な手の接触で「気持ちが悪い!!」と言われるイジメを日常的に受けていたため、「ヤダ、待ってたんだ。『個別に』という意味だったんだけど、ここで断ったら気まずくなるから、『仕方なく一緒』するか。なんか待たれるって気持ちが悪いな」と思われることを極度に恐れていた。

過去にC男をイジメたのはD子とは別人だったが、C男は逃げるしかなかった。

C男は幼少から「言うことを聞かないと置いて行くぞ!!」とか、「裏山の暗闇へ放り出してやろうか!?!」などと、「置いてきぼり不安」を与えられながら育ち、大きな不安を抱えていたが、ある程度は心の問題を解決していた。

かつては不安の塊りだったため他人の痛みが分かり、放っておけず D子の問題に介入したが、最後は独りにさせてしまった。自分が人からされたくないことを D子にしてしまった事実が頭から離れず、C男は苦悶の日々を送った。

D子は他の同僚男性と一緒にになった。C男は退職した。

C男は世界を変えるための活動をしていたが、社会に頭角を現すことはなく、そのまま老いて、人生の幕を下ろした。高い技能を有していたが、使う機会がなかったので、技能は無いも同然だった。

(おしまい)

容赦 – 正の連鎖 –

まこと「痛…」

あなた「す、すみません」

まこと「いいんです」

あなた「でも、すごく痛そうで…」

まこと「あなたが今度、人から足を踏まれたら^{ゆる}赦してやってください。自分は以前、人の足を踏みましたが^{とが}お咎め無しだったので…」

(おしまい)

事象の裏側にある人の心理を知れば、気性が激しい人の怒りも治まるだろうと思い「無視 – 負の連鎖 –」を書いたのですが、救いが無いストーリーだったので「容赦 – 正の連鎖 –」を追加しました（転載）。

最終更新日 2026-10-30

[ライブラリ](#) [まこと](#)